



お父さん、お母さんの声援を受けて

## 秋の主役たち…

10月6日東白川小学校で運動会が行われました。当日は、小雨まじりの天候となりましたが、子供たちには関係なし。元気一杯運動場を所狭しと大活躍。詰めかけたお父さん、お母さんたちも、子供たちの勇姿をカメラやビデオに収めようとこちらも大活躍。

また、本年度卒業生による卒業記念テントもこの日初御目見え。星座をテーマにした記念テント、「星のように一人一人がいつまでも輝いていたい」との願いを込めたプレゼントです。



3年度卒業生記念テント

# 広報

# ひがし しらかわ

1991  
平成3年  
10  
No.367

発行 東白川村・編集企画課  
岐阜県加茂郡東白川村神土  
〒509-13 ☎05747-8-3111  
印刷 下呂印刷株式会社

### 人口の動き

—9月末住民登録人口から—

世帯数	907世帯
人 口	3,470人
転 入	2人
転 出	6人
出 生	1人
死 亡	3人

先月と比較して6人減  
 昨年同月と比較して  
 33人減



食を考える

# 給食体験記

「秋」と言えば食欲の秋を連想される方が多いと思います。「グルメ」と言う言葉がもてはやされ「飽食の時代」といわれる程、満ち足りた食生活を日本人は送っているといわれています。

そこで今回は学校給食にスポットを当て、広報モニターの方に給食センターの視察を言われた学校の給食事情についてレポートしていただきました。



## 3時間で800食分

「子供たちが毎日食べている学校給食、いったいどういう過程を経て作られているのだろうか」それが今回のテーマに対する出発点でした。

ご存知のように現在東白川の小中学校の給食は、加子母村にある「加子母東白川学校給食センター」で作られています。

広報モニターの方による給食レポートは、この給食センターからスタートしました。

給食センター視察に参加されたモニターは四名。河田重喜さん(西洞)・神戸啓子さん(平)・安江富美子さん(陰地)・鈴木一喜さん(陰地)。女性の方が興味を持った部分は、栄養バランスの面、材料の面など、また

男性は、衛生面や使われている機材に目がいったようです。

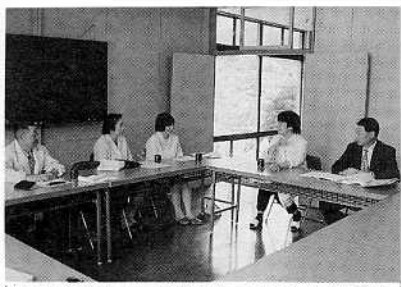
昭和四十七年に発足した給食センターですが、現在は所長さん栄養士さんがそれぞれ一名職員の方が6名、運転者の方一名の合計9名の体制で加子母村と東白川村の児童生徒約八百食分が作られています。

始業は、献立てによりさまださうですがおおむね朝七時三十分。調理室に入る前には白衣・帽子はもちろん、入念に消毒を行ってから入ります。白衣等を借用し調理室に入ったモニターの皆さん「その日の献立てに使うもの以外、不用なものは何一つないのには驚きました」(神戸さん)とおっしゃるよう

に前日の午後から作られたこの日のメニューの材料以外はなく調理室は整然と整理されています。

この日の献立では、栗赤飯・白菜・ほうれん草・もやしのピーナツ和え・鯛のフライ・たくあん・牛乳でした。給食が全部出来あがるのが十時四十分、約三時間で全部の給食が作られます。フライは、鯛の切り味から、ピーナツ和えは生野菜からのスタートです。

「とにかく動きに全く無駄がなく、各自の分担を確実にこなして作り終えた頃には、かたづけまで全て終わりゴミ一つ落ちていない。とても真似できません。」(安江さん)「大釜で赤飯を交ぜる作業は、女性にはかなり重労働なのは」(河田さん)。セ



高瀬栄養士から説明をうけるみなさん

ンターからいたいた二ヶ月分の献立表を見て驚いたことは給食にパンが少ないことです。九月の場合、パンの日が僅かに九回圧倒的にご飯が多いことがわかります。

こうしたご飯給食が多い理由を栄養士の高瀬さんに伺ったところ「日本人は昔からお米を主食として食べているので、子供たちに少しでもご飯を好きになってもらいたいこと。また、お箸を使う民族なのでご飯給食を実施することで箸使いの練習になれば」と考えてみるようです。

## 1食僅か211円で

給食作りの行程を一通り見たモニターの皆さんは、田口所長さんと高瀬栄養士さんから、給食センターの説明を受けました。そこでモニターの皆さんから質問として集中したのは、毎日の献立で作りです。

センターからいただいた献立表を見ると和風あり、洋風あり中華風ありと実にバラエティに



大釜の説明をうける神戸さん鈴木さん

とんだメニューです。中には手作りハンバーグ等手の込んだものもありました。現在、給食センターで一食分にかかる材料費は小学校の場合だと二百一十一円。牛乳とお米には補助が出るとはいえ、いかにやりくり上手な奥様でもこれだけの金額でメニューを考えることは至難のわざです。

「どうやったら子供たちが喜んで食べてくれるのか、ただ子供たちが好きなものばかりを出すわけにはいかないし、栄養バランスのことと費用のこと等献立には本当に手を焼きます」と栄養士の高瀬さんが語って下さった言葉が全てです。

「費用の事を考えると冷凍食品などが中心になるのでは」というのが出発前のモニターの方々の考えでしたが、裏舞台を見て「本当に御苦労な仕事です」と感嘆しきりでした。

職員皆さんの御苦労は、給食の残量の少なさが示しています。

(次ページへ続く)

## 同時進行調理システム



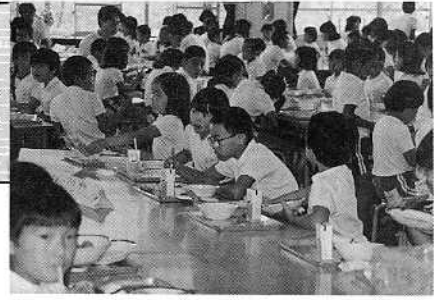
ピーナツ和え

鯛フライ

栗せきはん



# 給食数 168,224食



## ランチルームで全員で一緒に

みんな

たよです。

完全給食は、加茂郡のトップを切って昭和二十七年旧神戸・五加小学校・二十八年旧越原小学校・二十九年には東白川中学校でそれぞれ実施されました。

この初期の完全給食世代の人たちに話をうかがうと必ずと言

つていほど話題に登るのが『脱脂粉乳』です。「匂いを嗅ぐ

のもイヤだった」とか「いつも学校へ空瓶を持って行って帰りにこっそり捨てました」

なんていう思い出もあれば「けっこう好きだった」というような話も聞けたり、

好みは賛否両論のようです。ちなみにこの脱脂粉乳が、

現在のような牛乳に変わったのは、昭和四十四年の事でした。

昭和四十七年、東白川村と加子母村の合議により「加子母東白川小学校給食共同調理組合（給

食センター）」が設立された。昭和八年頃からだ

そうで、「味噌汁給食」と呼ばれる冬のみの婦人会の

労力奉仕によるもので、いわゆる味噌汁のサービスでした。と

にかく食糧のなかつた時代、せめて暖かい味噌汁と野菜などを

持ちよって交代で作られてい

「子供たち

## 味噌は手づくり

「最初、煮炊きは全て薪

しかも専属の給食婦は私一人、婦人会の人が交替で一人づつ来てくださいました。それも

でも百人分の給食を作ることは大変でした。それでも、

子供たちが喜ぶようにとプリンなども研究して作ったり、

あの頃の子は食欲旺盛で、出した物をきれいに食べてくれる事が楽しみでした。」

その当時のお話を聞かせて下さいました。

食センター)が発足。村内の各小学校でランチルームでの合同給食が開始されました。県教育委員会が六月にまとめた「平成

二年度給食状況」によれば、現在、県下でランチルームによる合同給食を実施している学校は

百四校。昭和五十四年度の調べでは三十五校しかなかったそうですから四十七年の実施は、県

下でも先進的であったといつてもいいでしょう。

東白川小学校の中山校長先生はランチルームについて「例えば低学年の分の給食が残っているような時、高学年で早く食べ

終わった子が、手伝ってあげられるから、給食の残量がほとんど

ありませんし、多勢でいっぺんに食事をするので食べる意欲が沸いてくる。」と語って下さいました。

村の学校給食の歴史を少し振り返りましたが、今回小学校での給食体験に参加のモニターの

方でこのランチルームの経験者は、鈴村さんただ一人。それも

旧越原小学校の頃のこと。モニターの皆さんの興味は、この合同給食に集中したようでした。「もつとワイワイとさわがしい給食を想像しましたが、給食中に流れる放送に耳を傾けて静かに食べていた」「残す子が少ないのは驚きました。」といったような感想が出ました。

「同じ釜の飯を食う」という諺があります。これは一緒に暮らし、ごく親しい仲といった意味ですが、学校という一つの集団の中であって給食から生まれるものは、まさにこの言葉なのではないでしょうか。このことは、学校給食法という法律の中にも「学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと。(第二条)」といった言葉を見つけていることができ



給食と呼べるかどうか疑問ですが、東白川の給食のスタートは「村誌」によれば昭和八年頃からだそう。で、「味噌汁給食」と呼ばれる冬のみの婦人会の労力奉仕によるもので、いわゆる味噌汁のサービスでした。と

「おいしいほど話題に登るのが『脱脂粉乳』です。「匂いを嗅ぐのもイヤだった」とか「いつも学校へ空瓶を持って行って帰りにこっそり捨てました」なんていう思い出もあれば「けっこう好きだった」というような話も聞けたり、好みは賛否両論のようです。ちなみにこの脱脂粉乳が、現在のような牛乳に変わったのは、昭和四十四年の事でした。昭和四十七年、東白川村と加子母村の合議により「加子母東白川小学校給食共同調理組合（給食センター）」が設立された。昭和八年頃からだそう。で、「味噌汁給食」と呼ばれる冬のみの婦人会の労力奉仕によるもので、いわゆる味噌汁のサービスでした。と

十時四十分、出来上がった給食を積み込んだ運搬車の後を追って

広報モニターの皆さんは一路東白川小学校へと向け、給食センターを後にしました。

広報モニター

の目的は、給食体験です。

# 食を考える 年間

平成二年  
度の場合、  
給食センタ  
ーで年間に  
作られた給  
食数は、十  
六万八千二百二十四食。その献  
立でも前述のように豊富です。

## 食事は楽しく食べるもの

子供たちの一番好きなメニューは、断トツで「カレーライス」。この日のメニュー栗赤飯は、好きな子嫌いな子にわかれたようですが、パンとご飯どっちが好きの質問には、「ご飯の方が好き」と答えた子が多く、どうやら子供たちの好みは、昔も今もあまり変わらないようです。

完全給食の実施の頃の話を見てみると以前は、「家庭でのお百姓仕事で、忙しくて子供たちに手の込んだことをして上げられないので、せめて学校では、家で出せないようなものを出して欲しい」といったような状況が多かったようです。しかし、現在は、「飽食の時代」の言葉が示すように

食べるものに不自由のない時代です。また、道路の整備などにより、短時間で村外にも買い物に出られ、以前は、手に入りにくかったものでも容易に手に入る時代です。その反面、子供たちまで口が肥えてしまつて、「好きな物しか食べない」というような現実もあるようです。

るようにと「ピクニック給食」というものを考えてみえました。これは、四、五人分のパンやおかずをかごに入れ、外でグループで食べるものだそうです。また、県内でも「バイキング給食」などのシステムを取り入れている学校もあるようです。

外国人が、日本人を見て早く食事を食べる事にびっくりするそうですが、今回この学校給食を通して、明らかに言えることは「食事は楽しむもの」と言うことでしょう。なぜならば「食べることは、人間にとつて最も大切なことなのであります」。

### 残った牛乳を：

昭和四十四年から旧神土小学校閉校までの十一年間を神土小学校で「給食のおばさん」と親しまれた寺坂はまゑさん（71・下野）。寺坂さんのお勤めの時期には、給食センターの開設などもあり、学校給食改革の時期でした。「あの頃の子供たちは、よくおかわり」

を食べても満足です。中学生になると何故か牛乳を残す子が多くなったので、残った牛乳は冷蔵庫に冷やしておいて、放課後小学生にあげたものです。フライ物などは、特に喜んで食べましたよ。」とその当時は懐かしそうに振り返って下さいました。



旧神土小学校ランチルーム

「好きな物しか食べない」というような現実もあるようです。今回モニターの皆さんが、給食センターの視察からランチルームでの給食体験を通して「子供たちが楽しそうに食べていた」という感想を話

して下さいましたが、食を考えるとではないでしょうか。みなさんも一人で食事をした

ときのことを考えてみて下さい、実に味気ないものです。

前述の給食センターの栄養士高瀬さんは、何とか子どもたちに楽しんで給食を食べてもらえ



ランチルームでの食事風景

# 豪華絢爛 十五周年

昭和五十二年、東白川中学校体育館で復活第一回公演を行なってから今回で数えて十五回めとなった郷土歌舞伎公演が、秋風爽やかな去る九月二十三日秋分の日に盛大に行われました。記念公演ということもあり素晴らしい盛り上がりとなり、また次代を担う新しいスター達も続々誕生しました。



安江伸子ちゃん 山下奈緒美ちゃん

## 女形の世代交替

「今年、十五周年記念と言うことですが、見どころは何ですか」と歌舞伎愛好会員の小池正二さん(76)に伺ったところ

「はり例年にならないような緊張を味わったようでしたが、顔師によって顔がつけられ、衣裳を身に着けてみるとそこには、「梅川」という名の女性となった林さんがありました。



梅川役の林昇さん(左)

「世代交替」でした。昨年まで女形を演じた小池さんが第一線を退き、昨年まで男役しか経験がなかったという大明神の林昇さん(44)が女形を演じることを意味したものです。

舞台上上がる前の林さん、やて「よっ大統領！」とか「玉三

出番となった、「恋飛脚大和往来」、林さんが登場すると会場から割れんばかりの拍手が。また拍手に交じって

郎とか威勢のよい掛け声から次にかかりました。華麗というばかりでなく優雅な美しさをも演じた林さん。舞台を終えるときさすがにホッととした表情で「美濃加茂の方から見に来て下さったお客さんが、わざわざ舞台裏まで来てくれて「笑によかった」と誉めて下さったんですよ。」とこの日一番の笑顔で語って下さいました。

歌舞伎の発祥を調べてみると語源は戦国時代の社会風俗を表した「傾く」という語から転訛したものと言われ、成立は江戸期になってからのこと。成立当時は、女性が演じること

## おしらせ

### 児童手当制度が変わります

平成四年一月から児童手当法が改正され、次のような制度になります。

〔平成四年一月から十二月までの制度〕

#### ◆支給対象

- 一人目の児童で平成三年一月二日以降に生まれた子
- 二人目以降の児童で昭和六十二年一月一日以降に生まれた子

#### ◆支給期間

- 一人目の児童 満三歳の誕生日の月まで
- 二人目以降の児童 満五歳の誕生日の月まで

#### ◆手当月額

- 一、二人目の児童 五千円
  - 三人目以降の児童 一万円
- 制度の改正は平成六年まで段階的に行われます。なお、児童手当には所得制限があり、前年

の所得が一定額以上の方は手当を受けられません。

詳しくは役場住民係(有線二一五一)まで。

### 一一九番通報は

落ちて着いて正確に

火災や救急の際の一一九番通報は、有線電話の場合、可茂消防事務組合東消防署の東白川分遣所へ、N T T電話は、直接東消防所へ通じていますので、お間違えのないよう確認して下さい。

また、非常の際は落ちて着いて集落名と世帯主の名前をはっきりと告げるようお願いいたします。

特に屋号等での通報は、わかりにくいことが多いためこの点十分に注意して下さい。

### 演題は「笑ってよ北極点」

#### 第17回文化講演会

第十七回文化講演会の講師が女優の和泉雅子さんと決まり次







「やってみないか。」  
その問いに、「二  
つ返事で、「い  
いですよ。」と答

### 後味、小気味よく

派遣社会教育主事 井上光彦  
のつべらぼうのように白くな  
った顔に芸術作品ともいえるメ  
イクが描かれる。重い衣装をつ  
けて、かつらとひげで仕上がり、  
義太夫ののって花道にとび出  
すと、さつきまでの緊張は消え  
失せ、後はもう、無我夢中。

後味、実に小気味よく！  
今、皆さんの好意で届く何枚  
かのスナップが、その小気味良  
さを、余韻として心の中にしみ  
らせてくれる。

がおもだったそうですが、江戸  
時代の元禄期までに女優の禁止  
などの歴史を経て現在の形態と  
なったようです。歌舞伎の魅力  
である女形。男性が女性を演じ  
るわけですが、林さんの女形デ  
ビューによって村の歌舞伎界に  
新風が吹き込みました。



小四郎役の田口明日香ちゃん

### 次代を担う若者が

今回の郷土歌舞伎での注目点  
には青年団の出演も挙げられま  
す。

永い歴史と伝統  
を持つ東白川青年  
団ですが、現在は  
団員数も僅かに二  
十数名の現状です。



青年団 今井誠さん・松岡正道さん

毎年恒例となっ  
ている11月の「青  
年祭」も今年は止  
めざる負えないと  
いった状況でした。

そんな矢先歌舞伎愛好会の方か  
ら今回の公演会に出演してみて  
は、との話が持ち上がり、渡り

に舟とばかりに青年団の出演が  
決まりました。

出し物となったのは、「歌舞  
伎舞踊」といわれるもの。簡単  
に言えば踊りだけですが、台詞

が無いから楽  
だろうと思っ  
きや、何しろ  
出演した六人  
全て未経験。

「振り間は違  
うし、髪は重  
いし。」(田  
口佳澄さん・  
西洞)「もっ

と練習したかった」(安江利修  
君・加舎尾)など感想もさまざま。  
また、青年団長の今井誠君  
(平)は「機会があれば来年も  
参加してみたい」と力強く語っ  
てくれました。

毎回話題を集める子供達です  
が、今回も名演技に拍手喝采。  
「道行旅路の花罨」のおかる  
勘平を演じた山下奈緒美ちゃ  
ん(神付)安江伸子ちゃん(神  
付)「近江源氏先陣館」の小四  
郎役の田口明日香ちゃん(平)

などの好演は観衆を魅了。  
熱烈な愛好者によって守られ  
た郷土歌舞伎。次代を担う若い  
芽はどんどん育っています。

### 図書コーナー

#### 妊娠カレンダー

小川 洋子著



姉が妊娠したとわかった  
時の妹の「心の内に秘めら  
れた感情」と「接する態度」  
とが対象的だった。それが  
同時に後に残る恐ろしさを  
感じさせる作品。  
一芥川賞受賞作品一  
推薦人 (21歳・女)

#### 天空の舟 上・下

宮城谷昌光著



中国最古王朝をテーマに  
した書き下ろし大河ロマン  
事実をもとにしたとはいえ  
想像力からなるこの描写は  
読者を魅了した。今回著者  
は別の作品で直木賞を受賞  
したが共に薦めたい一冊。  
推薦人 (71歳・女)

### 健康院団体受診

#### のお知らせ



和泉雅子さん

村では今年も健康院の団体受

診を一月に計画しています。

この健康院では、半日で血液

検査や眼底検査、心電図など、  
50項目余りの検査を受けられま  
す。日程は、

○女性：一月二十一日(火)

○男性：一月二十三日(木)

料金は、

○女性：三万八千九百九十円(含子  
宮がん検診料)

○男性：二万七千八百円

両日とも役場のマイクロボス

で送迎します。受診をご希望の

方は、十一月末日までに役場保

健係(有線二一五六)までお申

し込みください。

敬老

みんなが主役  
シルバーパワー大ハッスル



割れそうでなかなか割れず

九月十五日敬老の日は、恒例の「老人まつり」が、二百余名のお年寄りの参加のもと、盛大に開かれました。

玉入れに輪なげに、またカラオケにと若さを遺憾なく発揮したおじいちゃん、おばあちゃんたちでしたが、最後のくじ餅投げでは、「入れ歯」が落とす物として本部に届けられるハプニング。まさに大歯ッスルでした。

味覚

鉢植えでもこんなに  
立派になりました



観賞用よりは……

下野の寺坂五郎さんの鉢植えのアケビがなんと二十三個の実を付けました。例年ならせいぜい五、六個しか付けないそうですが、今年の豊作には寺坂さんも驚きの表情。

寺坂さんがアケビの数よりも驚いたのが近所の子供がアケビを全く知らなかったことだかともかく稔りの秋としては幸先のよい知らせとなりました。

実習

子供たちの元気のよさに  
圧倒された実習生



子供たちの方がリラックスノ

「以前教育実習を岐阜の市内で行ないましたが、都会の子に比べ東白川の子供達の元気の良さには驚きました」と語ってくれたのは、東白川小学校で一年生の算数の授業を行なった教育実習生の渡辺出さん。

十月二日から四日までの間、東白川の小中学校に岐阜大学教育学部から二十一人の実習生たちが訪れました。これは「地方

巣作り

これが本当の  
「箱入り娘？」



ハチを怒らせてしまいました

上の写真は、ただの段ボールではありません。アカバチが巣くった段ボールです。

広報写真班は、何とか箱の中の巣を撮ろうと決死の努力の結果、ふたを開けることに成功。撮ったらすぐ逃げるといふスリル満点の撮影となりました。土地の高騰による住宅難を風刺したようなハチたちの珍住宅事情でした。

戸籍の窓 9月敬称略



誕生おめでとう  
ございます

（大明神）安江 久光  
元博（長男）  
ゆり

（い）  
（け）  
おくやみ  
申しあげます

田口 とみ 85歳（中谷）  
高木 秀 80歳（黒淵）  
村雲 映司 40歳（中通）  
■善意の寄付■敬称略  
〔高齢者生活福祉センター建設費指定寄付金〕  
現金十万円 村雲規造（上親田）  
〔東白川中学校へ〕  
ビデオカメラ一台及びその他付属品一式 財教育設備助成



## 祭り

### 初宮まいりにドツと七組 氏神さまにごあいさつ



元気に育てと祈りを込めて

誕生後初めての氏神さまへのお参りを初宮まいりといいますが、去る九月二十九日神田神社の秋まつり当日の午前中に初宮まいりが行われました。

神田神社において祭りの日に初宮まいりが行われるのは初めてのことでしたが、神土地区の七人の子供達がご両親と伴に神社を参拝、神秘的な顔つきでお祓いを受けておりました。

## 珍品

### これナンだ! これナースだ!

今月も芸術の秋にふさわしい作品を二点紹介します。上の写真は、バナナ型ナス?日向の安江民雄さんの作。下は加舎尾の安江成喜さん作。「ツチノコつ

かまえました。」とは奥さん真知子さんの発。ともかく「茄子の豊作は稲の豊作」なんて諺もあるそうですからよい知らせなのでは…?



安江民雄さん作



安江成喜さん作

## 仕奉

### 靴ひもとシートベルト この関係は?



「シートベルトしめて下さいネ」

秋の交通安全週間中の九月二十一日、神土平地内(白草前)でシートベルトとヘルメットの着用調べが行われました。着用率は、八割強と好結果でした。またこの折、交通安全協会婦人部六名の方が靴ひもで作ったマスコット守をドライバーに進呈、安全運転を呼びかけました。つまりこの謎解きの答えは、「締める」だったんです。

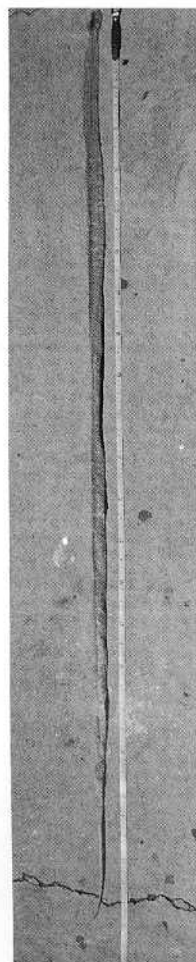
## 怪蛇

### またまた記録更新 カメラ泣かせの巨大蛇

広報七月号が、下親田で二〇五センチのヘビの皮が見つかったと報じた時点で、ギネス関係者の間では「おそらく今世紀最大のヘビの皮では」との見方をして

おりましたが、どっこいそれをはるかに上回る二二二センチのもの、このほど陰地で見つかりました。発見者安江寿子さんの話では、見つけた時頭のあたりに

まだ温もりが残っていたとか。何とも背すじの寒くなるような話ですが、この皮のヌシは、ひよっとすると越原一帯の守り神の仮の姿なのでは…。



パノラマカメラで

会

〔五加保育園へ〕  
昔話アニメビデオテープ四巻  
■安江益郎(柏本)

■工事入札の結果

①は入札期日②は落札金額  
および落札業者

▼寒陽気林道法面緑化工事

①八月二十八日②九十二万七千円、新田建設

▼総合グランド建設工事

①九月三日②一億八千八百四十九万円、丸登建設(株)

▼基幹農道開設工事(後山)

①九月十七日②三千八百一十

一万円、山田土建(株)

▼補完工事釜淵法面吹付他

①九月十七日②六百八十八万

円、山田土建(株)

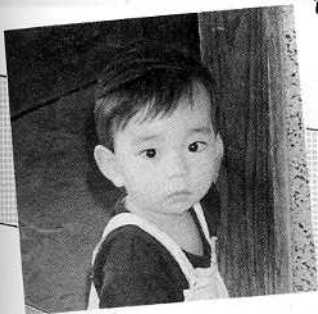
①九月十七日②三千八百一十

一万円、山田土建(株)

▼補完工事釜淵法面吹付他

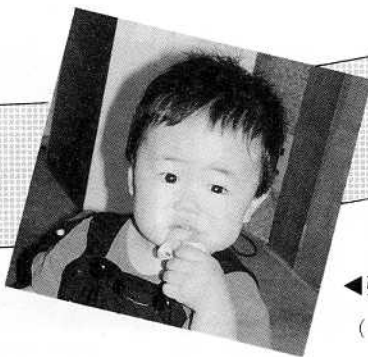
①九月十七日②六百八十八万

円、山田土建(株)



▲安江一輝くん

(清造さん・恒子さん二男一神付)



◀粥川 隼ちゃん

(孝志さん・幸江さん三女一陰地)



# ふれあい広場

## 新婚さん♡

■ワン・ショット■

「五介

は縁結びの神様？」

今回こ

紹介するカップル

は結婚したばかり

新婚ホヤホヤの鈴

村一喜さん

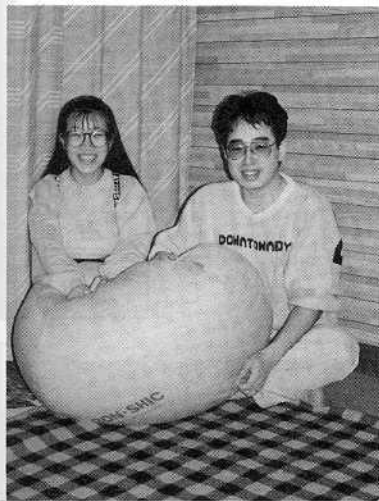
ん・のぞみさん夫妻(陰地)。

白川町赤河出身ののぞみさんですが、保健婦として村に来て三年、すっかり馴染みの顔。また、一喜さんは、夏まつりの実行委員長に広報モニターにと活発な活動家。そんなお二人が、お互いに意識を始めたのが昨年の「ふるさと夏まつり」まさに五介が取り持つ縁。

「とにかく一日も早く一緒になりたかった。」と一喜さんが語るようにのぞみさんを口説き落とすまでには、かなりの猛アタックがあったとか。

いろいろな事情から苗字を変えることとなった一喜さんですが、そこは今風の考え方で「一緒にになれるなら」と乗り切ったそうです。そんな情熱家の一喜

さんに惹かれたのぞみさん。端から見てもヤケドしそうなお熱いお二人です。



この写真は引きのばしてお二人に進呈します。

# ふるさとものば

32

## ☆跳ね回る動詞 ⑤

前回に引き続き「行く」を中心に動詞の跳ね回る姿を探ります。

【いくしこうや】行くそうだという意で、第三者のことを推量して話すときなどの言葉です。

「あいやあ山い行くしこうや(彼は山へ行くそうだ)」などを使用します。

【いくやら】行くだろうと念を押したり、行くであろうと推量したりする言葉です。「おつけ行くやら」などを使用します。

【いくら】行くであろうという疑問の言葉です。「おまい、いくら(君、行くだろう)」というように使用します。

【いける】行くことができるの意。

【いけるか】出掛けられるか、出発できるか、の意。

【いけるけ】一つは、出掛けることができずか、出発でき

ますかの意。もう一つは、行くことが可能ですかの意があります。

【いけれん】行けない、行かないの意ですが、言葉数を省いた、ぶっきらぼうな表現です。

【いこかえ】行きましようかという丁寧な表現で、相手に何う意があります。

【いこまいか】行こうか、行きましようかという意ですが、

「行くことにしましようか」と相手に何う意味も含んでいます。

× × × × ×

「行く」という言葉をもとにして、動詞がころころと転がるように変化していく様子を並べてみました。他の動詞でも、ほぼ同じように展開できます。中でも進行形の表現は独特で、共通語では現わすことのできない深い意味を含んでいます。限られた紙面で、それに深入りすることができなくて残念です。



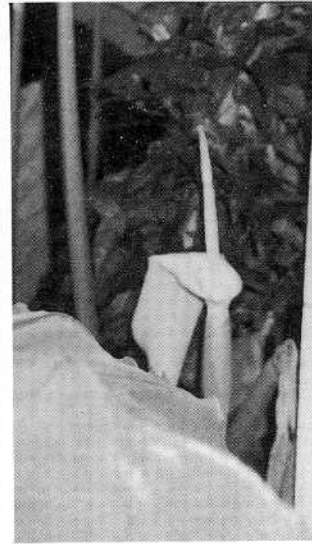
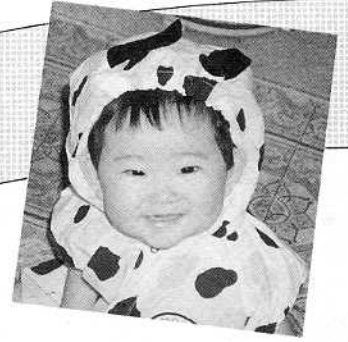


ふるさとのよもやま話に花が咲いた「東京クラブ里帰り交流会」。交流会に参加した会員からのたよりが寄せられました。

○ ○ ○  
「随想」 古田一夫

「故郷は遠きにありて想ふもの」ある作家の一節で有ります家が私達の心を温く

支え郷愁に想いをほせる故郷の姿が、高齢になるともにより一層身近に感ずる想いで一杯です。



里いもの花  
日向の桂川政一さんがめずらしい写真を送って下さいました。九月の初旬に咲いたそうで淡黄色の花はとても鮮やかです。

めったに咲かない里イモの花

故郷を訪れるたびに一歩一歩発展を遂げていることを感じますが、今回は特に「ふるさとセンター」の完成と大沢橋、宮代橋の開通とが印象に残りました。聞くところによると五加バイパスは、下野・柏本方面に向って着々と進行中だとか。次の回の帰郷の楽しみが、また一つ増えました。(宮代出身)

「ふるさとを想う」 田口雅子  
今年も夏の帰郷が終了しました。皆様にお目にかかって「お久しぶりです」と云うよりは「又、

帰って来ました」と云う気持ちでした。楽しみだった「ふるさと夏祭り」朝市で買った野菜は信じられない程、安く新鮮で、また、夜は夜でスタッフの方のユニークな発想と努力で大変楽しませていただきました。  
毎回「広報ひがしらかわ」を読んでいますが、まず最初に見る欄は「人口の動き」です。村での諸活動が成果を上げ、Uターン族が増え、この欄に「昨年の同月と比較して○○人増」の文字が見ることが出来ますよう願っております。(平 出身)

### 働くお年寄り 我が生涯 これ一筋 養蚕

「相手が生き物だけに蚕が来ているときは、一日中気を抜く暇もありません」と語るのは西洞の各務政一さん(74)。

蚕とのお付き合いは長く、本格的に始められたのは、戦争から戻られた昭和二十二年の頃ですが、家では各務さんが子供の頃から蚕を飼っていたため六十年以上のキャリアだとか。養蚕の苦勞話を聞かせて下さいました。「昭和四十五年に現在の養蚕ハウスを建てるまではうちに限らず蚕を飼っているどの家庭でも家の中で飼っていたものでした。家の中で飼っていた当時は、今とちがって桑の葉を一枚一枚摘んでいましたし、繭を作る時期になると葉の葉に蚕を登らせて選別する方法をとっていました。また、その頃は肥料の質のためか、蚕が腐ってしまったことなども何回かあり苦い経験をしたものです。」

現在は、飼育の方法も、蚕のエサである桑の採り方もその当時に比べ、随分改善され楽になってきているそうです。  
「昔は、ほとんどの家庭で蚕を飼ったものですが今は、養蚕をする家庭が、

数えるほどしかなくなってしまっている。」と少し残念そうな各務さんでしたが、健康の秘訣を尋ねると「仕事をして体を動かすこと」と元気に答えて下さいました。

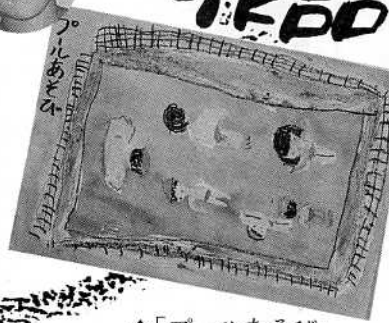
春から秋にかけて年五回蚕を飼っている各務さん。現在は奥さんのくにさんと二人暮らし。養蚕は、二人一組になった作業が多いとのこと。息のあったご夫婦のチームプレーが大切になってくるようです。



回転族を入れてホッと一息



# わたしの作品



▲「プールあそび」

越原保育園 やすえまほちゃん(大明神)



「ひまわり」  
東白川小学校2年生  
鈴木沙恵さん(平)



# 創造

▲東白川小学校6年生  
今井由美子さん  
(西洞)



# 創造

▲東白川小学校6年生  
今井洋介君(大沢)



## 広報文芸

### ●短歌

○一線づつ巧みに張りゆく蜘蛛の巣に旭きらきら映えて光れり  
早瀬 勇造

○あるはずも無しと知りつつ抑留者の名簿くまなく時かけて見る  
安江とし江

雨上りの朝の空気はすがすがし上衣を脱ぎて背伸してみる  
田口 一枝

カラマツの林を過ぎて這い松生ふロープウエーは雲に近づく  
安江 龍玉  
(御嶽参拜)

○一世紀の生涯静かに今閉じて媼の葬列ひぐらしの道ゆく  
三戸 きり  
(九七才死去)

心無きドライバーが捨てし空缶は道草を刈る機にふれて鳴る  
安江 澄

○男の孫と戦争のこと語り合ふ原爆忌の朝雨降り出する  
今井 かな

新道の建設工事進みつつ山の姿の変るに驚く  
安江 節子

下刈りの汗と油の染みし作業衣洗ひて明日より盆供養せむ  
安江 香

真夜中にピストルのごと音のして藤花の種弾けて飛びしか  
小林 道子

時ならぬ冷気に胸元かき合せ原爆の日の映像に見入る  
安江 幸

草をとり穂肥をやれば波うちて稲は真実田に似合ふもの  
小池 弘子

一旦は切り捨てたりし瓜なるも蟻せせらぬかと土を被せる  
小池 きぬゑ

瀬の音に目覚めし夜中を雨降り明日の旅行の無事を祈らん  
安江とくよ

定年の夫と二人居の庭先に今日はゆらげり孫の衣服が  
今井 米子

日盛りにゲートボールの練習す試合に備へ汗たらしつつ  
安江すみよ

友釣りもまばらになりて川岸の荒草のなか蟋蟀の啼く  
安江 守平

すぎし日に親子の縁むすびしより三十六年今終りたり  
若井 信江

○早朝の天気はうまし伸びすれば下弦の月は白く浮きおり  
伊藤 美枝

二人して一六〇の年迎へつ尚ささやかにする命こそ  
伊藤 重雄

あなたの作品をお寄せください！初心者、とくに若い人たちの投稿を  
歓迎します ●偶数月の二十日までに神主伊藤重雄宛に出して下さい。

## こぼれ話



九月二十七  
日の夜半から  
二十八日未明  
にかけて、大  
型で非常に強  
い台風十九号  
が本土に上陸  
した。

「中心気圧  
は九四五ミリ  
パール、中心  
付近の最大風  
速は四十五m、  
中心の南東側  
四四〇km以内  
では風速二十  
五m以上の暴  
風雨になって  
います」。

九州に上陸  
したあと、日  
本海を北東に  
進むと台風情  
報がいつているの  
で、東白川村への  
影響はほとんどな  
い、と勝手に判断し  
何の防風対策もせず  
床にたった。

十一時ごろ少し風が  
ふきだした。中心から  
ほど遠いのに結構余波  
はあるものだ、その時は感心  
する。

十二時、風が強くなってきた。  
外にしている大輪の菊鉢七〇  
本が心配になってくる。しかし、  
多分もう風も収まるだろうと自  
分に言い聞かせ、じっと耳をす  
ます。ガラス戸がゆれ、外を空  
カンや木枝が風にあおられて、  
音をたてている。

午前一時、ついに辛抱もそこ  
まで、風雨の中を菊鉢をもつて  
七〇回外と中を往復した。しか  
しその時期は既に遅し、大事な  
葉が落ちた菊もあり、くやしさが  
こみ上げてくる。

五月から、手しおにかけて育  
てた菊が痛んだことは残念だが、  
それよりも、四四〇km以内二十  
五mの風といった台風情報を自  
分勝手に解釈したことがくやし  
い。朝、田を見たら三日前に刈  
った稲はさが全部倒れていた。